

2021



朝日の社会福祉

令和3年度事業報告

2021年4月1日 - 2022年3月31日



「だれもが安心して暮らせる社会」をめざして

社会や福祉の現場に大きな影響をもたらした新型コロナウイルス感染症は、2021年度も収束を迎えることはありませんでした。そのなかで私たちは引き続き、「たとえコロナ禍にあっても、工夫を施してできる事業は可能な限り実現させる」の方針のもと、オンラインシステムなどを極力活用して事業を行ってまいりました。集客が必要な一部のチャリティー事業などは中止せざるを得なかったものの、おかげさまで助成をはじめとした社会福祉事業の多くを実施することができました。ご協力をいただいた支援団体の方々や関係機関のみなさまに、この場を借りて心より御礼申し上げます。

私たちがこれまで力を入れてまいりました社会的養護出身の学生に奨学金を贈る「進学応援金」事業につきましては、奨学金を贈って終わりではなく、「その後」に寄り添う取り組みをいっそう強めました。学生たち自身による実行委員会が、多くの関係者がオンラインで生活の課題や夢を語りあうセミナーを企画して開催。さらに、今どんな悩みを抱え、どう乗り越えているのかななどを、学生たちにインターネットで広く音声発信していただく活動にも取り組みました。一方で、高校就学などを支える「まなび応援金」事業も充実させています。

このほか、発達障害の問題を教育現場から考えるセミナー、認知症に優しいまちづくりを考える事業、保育関連事業、災害復興を支える事業などを手がけることができました。支援の輪が社会に広がることをめざし、各事業においてファンディングなど新しい資金調達手法にも力を入れ始めています。こうした私たちの活動全般を、この事業報告書を通して知っていただければ幸いです。

私たちはこれからも、地域福祉の向上につながる「地域づくり」、福祉を支える人を育む「人づくり」、「支援の輪の拡大」の三つの軸にそって、だれもが安心して暮らせる社会の実現のために取り組んでいく所存です。温かいご支援、ご協力を、なにとぞよろしくお願い申し上げます。

2022年5月

社会福祉法人 朝日新聞厚生文化事業団

目 次

「だれもが安心して暮らせる社会」をめざして……………	1
社会福祉事業……………	3
児童福祉事業……………	4
障害者福祉事業 ……………	14
高齢者福祉事業 ……………	23
被災地支援……………	29
公益事業 ……………	31
福祉啓発・公衆衛生事業……………	32
チャリティー事業 ……………	35
朝日福祉ガイド 本・DVD ……………	38
主な後援・協賛・協力事業一覧 ……………	39
収支／寄付報告 ……………	42
中期計画 2020～新しい福祉のカタチをめざして～……………	43
朝日新聞厚生文化事業団のあゆみ ……………	47
名簿（理事・監事・評議員、職員）……………	49

社会福祉事業

■ 児童福祉事業

児童養護施設・里親家庭等進学応援金	4
児童養護施設・里親家庭等進学応援金 夢・進学 応援セミナー	5
児童養護施設・里親家庭等進学応援金 ぴあ応援ラジオ	6
児童養護施設・里親家庭等進学応援金 ぴあ応援ブックの制作、頒布	7
児童養護施設・里親家庭等進学応援金 ぴあミーティング	9
自立援助ホーム・子どもシェルターまなび応援金	10
朝日夏季保育大学	11
東淀川ドロップインランチ助成	12
ひとり親家庭への親子で楽しむオンライン体験ツアー	13

■ 障害者福祉事業

オンライン講演会 学校現場における発達障害支援のこれから	14
子どもの立場全国フォーラム グループ運営者研修会	15
精神疾患のある親に育てられた子どもの立場の「つどい」	16
精神疾患のある親をもつ子どもの立場の「家族学習会」	17
第38回全国高校生の手話によるスピーチコンテスト	18
聖明・朝日盲大学生奨学金	19
第41回朝日九州車いすバスケットボール選手権大会（佐賀市）	20
地域つながり BOOK 作成	21
第40回肢体不自由児・者の美術展／デジタル写真展	22

■ 高齢者福祉事業

府中町認知症フレンドリープロジェクト	23
府中町認知症リーフレット完成記念フォーラム	25
認知症カフェネットワークづくりミーティング	26
フォーラム「認知症カフェからの出発」Next	27
認知症フレンドリーキッズ授業	28

■ 被災地支援

朝日のあたる家	29
東日本大震災へのご寄付	30

事業の名称	児童養護施設・里親家庭等進学応援金
事業種別	社会福祉事業（児童福祉事業）
主催	朝日新聞厚生文化事業団
後援等	原田積善会（協賛）
事業開始年度	2008年度
事業の概要	児童養護施設、里親家庭、自立援助ホームで暮らし、大学などで学ぶ方に、入学金10万円と卒業まで毎年30万円の返済不要の奨学金を贈る事業です。また、応援生とともに社会的養護の未来に貢献するためのぴあ活動を実施。夢・進学応援セミナー（ぴあセミナー）、ぴあ応援ラジオ、ぴあ応援ブック、ぴあミーティングも実施しました（別頁に掲載）。
時期	5月に募集開始。3月に送金。
助成の目的	社会的養護で育った人の自立支援。
助成団体	
助成した人数	応援生総数66人（在学学生49人。22年度入学生17人）
助成総額	応援金給付総額2840万円（年度をまたいで送金した分も含む）
その他	<p>本事業は、朝日新聞厚生文化事業団に寄せられたご寄付と山岡こども応援資金などによって行っています。</p> <p>本事業へのご寄付：A-portクラウドファンディング358万4555円、214件、直接寄付259万5000円、45件</p>

事業の名称	児童養護施設・里親家庭等進学応援金 夢・進学 応援セミナー (びあセミナー)
事業種別	社会福祉事業 (児童福祉事業)
主催	びあセミナー実行委員会、朝日新聞厚生文化事業団
後援等	NPO 法人なごやかサポートみらい (協力)
事業開始年度	2021 年度
事業の概要	<p>社会的養護で暮らす中高生のための「夢・進学 応援セミナー」をオンラインにて開催しました。事業団の「児童養護施設・里親家庭等進学応援金」を受けている学生たち(「応援生」と呼んでいます)が中心となって企画・運営。講師の方々とともに、自らの経験に基づいた応援生ならではの真摯なメッセージを届けました。</p> <p>当日の様子は、朝日新聞や福祉新聞で紹介されました。</p>
日時	2021 年 9 月 5 日
場所	オンライン
事業の目的	社会的養護で暮らす中高生の修学・自立支援
事業の内容	<p>講演 「社会的養護から進学するということ—私の体験—」 講師：蛭沢光さん (NPO 法人なごやかサポートみらい 理事長)</p> <p>分科会 「医療現場で人を幸せにしたい！」 講師：山本愛夢さん (看護師)</p> <p>「海外で仕事がしたい！」 講師：伊藤ヒロさん (米国 Kids Hurt Too Hawaii)</p> <p>「福祉・行政でみんなの生活を支えたい！」 講師：高橋未来さん (厚生労働省)</p> <p>「アーティストになりたい！」 講師：松本哲也さん (シンガーソングライター)</p>
参加者数	児童養護施設などで暮らす中高生、里親・施設関係者など約 100 名 (オンライン開催で、一端末での複数名の参加も多く、正確な人数は不明)
参加費用	500 円

事業の名称	児童養護施設・里親家庭等進学応援金 ぴあ応援ラジオ
事業種別	社会福祉事業（児童福祉事業）
主催	ぴあ応援ラジオチーム（応援生有志）
後援等	朝日新聞厚生文化事業団（協力）
事業開始年度	2021 年度
事業の概要	<p>「同じ境遇の後輩に自分たちの経験を役立てたい」と、応援生の有志が YouTube、Podcast で中高生に向けた音声配信を開始しました。</p> <p>2022 年 1 月から公開し、3 月末までに 3 回の番組を発信。ゲストとともに、施設、里親家庭で暮らしていた頃のことや学生生活を語ったり、施設出身の社会人の話を聞いたりしました。</p> <p>番組は、企画から出演、音声編集など、学業とアルバイトなどの合間を縫って、応援生が手作りで行っています。</p> <p>ぴあ応援ラジオは、朝日新聞や福祉新聞で紹介されました。</p>
日時	2021 年 1 月から 3 月末までに 3 回発信
場所	YouTube、Podcast
事業の目的	社会的養護で暮らす中高生の修学・自立支援
事業の内容	
参加者数	
参加費用	



ぴあ応援ラジオ初回の収録
=21 年 12 月、東京都千代田区



ポッドキャスト用の画像。イラストやデザインも応援生が作成した。

事業の名称	児童養護施設・里親家庭等進学応援金 ぴあ応援ブックの制作、頒布
事業種別	社会福祉事業（児童福祉事業）
主催	ぴあ応援ブック制作チーム（応援生有志）
後援等	朝日新聞厚生文化事業団（協力）
事業開始年度	2021 年度
事業の概要	<p>応援生の有志が、社会的養護で暮らす中高生を応援する「ぴあ応援ブック」（A4 サイズ、8 ページ）を創刊しました。</p> <p>第1巻では、「中高生へのメッセージ」や「学生のお金事情」、「施設・里親家庭での失敗談」、「社会人インタビュー」などを、応援生の体験をもとにまとめました。</p> <p>制作は、5人の応援生が中心になって行いました。</p> <p>第1巻を3月に発行。22年5月頃に次号が完成予定です。</p>
日時	3月発行
場所	全国の児童養護施設、児童相談所、里親会などに送付しました。
事業の目的	社会的養護で暮らす中高生の修学・自立支援
事業の内容	
参加者数	発行部数 2000冊
参加費用	

事業の名称	児童養護施設・里親家庭等進学応援金 ぴあミーティング
事業種別	社会福祉事業（児童福祉事業）
主催	朝日新聞厚生文化事業団
後援等	
事業開始年度	2020年度
事業の概要	児童養護施設・里親家庭等進学応援金を受けている学生（応援生）が交流するオンラインの集い。
日時	2022年3月28日
場所	オンライン
事業の目的	今後の「ぴあ活動」を応援生が考え、また一人ではないことを感じ、互いに支え合うきっかけをつくる。
事業の内容	<p>これからの社会的養護やアフターケアのあり方について、専門家の話を聞いたり、応援生同士で意見交換をしたりして考えました。</p> <p>また、ぴあ活動に中心になって取り組むメンバーによる他の応援生に向けた活動紹介も行いました。</p> <p>講師</p> <p>蛭沢光さん（なごやサポートみらい） 水野梨沙さん（なごやかサポートみらい） 塩尻真由美さん（とちぎユースアフターケア事業協同組合） 相澤仁さん（大分大学教授） 福田雅章さん（養徳園総合施設長）</p>
参加者数	52人
参加費用	無料

事業の名称	自立援助ホーム・子どもシェルターまなび応援金
事業種別	社会福祉事業（児童福祉事業）
主催	朝日新聞厚生文化事業団
後援等	社会福祉法人カリヨン子どもセンター（協力）、原田積善会（協賛）
事業開始年度	
事業の概要	自立援助ホームや子どもシェルターで暮らす10代、20代の若者に、高校就学や資格取得にかかる費用を支援する本事業では、2020年度後期、21年度前期受付として合わせて335人に総額3755万3665円をおくりました。
時期	2020年10月から21年3月までと4月から9月までの高校等就学、資格取得を支援
助成の目的	社会的養護で暮らす子ども、若者の修学・資格取得・自立支援
助成団体	
助成した人数	就学金：302人に給付、資格取得金：33人に給付
助成総額	就学金：計3362万円 資格取得金：計393万3665円
その他	就学金：高校（全日制・定時制・通信制）などで学ぶための本人の努力を後押しすることが趣旨。6ヶ月間の就学に対して12万円を給付（返済不要）。 資格取得金：自立に向けて各種資格を取得する努力を後押しするために費用の実費を給付。 今年度に対象となった資格は、自動車免許、高卒認定試験、普通自動二輪免許、介護職員初任者研修、TOEFLなど。

事業の名称	朝日夏季保育大学
事業種別	社会福祉事業（児童福祉事業）
主催	朝日新聞厚生文化事業団
後援等	長野県諏訪市（共催）
事業開始年度	1954年度
事業の概要	第1回から長野県諏訪市で開催をしてきました本事業は、2021年度で67回目を迎え、この開催をもって終了となりました。保育に関する課題は全国的に様々なものが見られます。そのような中で、様々な立場、分野に触れながら、改めて現在の保育を見つめるため、今年度は「今、改めて保育を考える2021」をテーマとし2日間開催しました。
日時	7月16日、17日
場所	オンライン
事業の目的	保育士、幼稚園教諭、子育て支援関係者、親など、乳幼児の健やかな育ちを願う方々と一緒に、子どもの周りに起こっている様々な問題に向き合い、子どもとのかかわりについて考えること。
事業の内容	<p>【1日目（7月16日）】</p> <ul style="list-style-type: none"> ●開校式 ●「バランスから紐解く子どもとの関わりと私たちの生き方」～オープニングスペシャルプログラム～（天野耕太さん／バランス曲芸師・美術講師） ●「災害時にメディアが伝えられなかったこと」～東日本大震災の経験から、皆さんに知ってほしいこと～（隈本邦彦さん／江戸川大学教授） ●「しげちゃん一座の絵本と音楽とトークライブ」～子どもも大人もわたしらしく生きること～（しげちゃん一座【室井滋さん／長谷川義史さん／岡淳さん／大友剛さん】） <p>【2日目（7月17日）】</p> <ul style="list-style-type: none"> ●「あなたにとっての保育とは」～今までを振り返り、これからを見つめるために～（橋井健司さん／幼稚園 First Classroom 世田谷園長） ●「子ども・保護者のセイフティネットとしての連携」～保育園が地域にとって大切な存在であるために～（長谷川俊雄さん／白梅学園大学教授） ●「私を動かしたつづけるもの」～登山が私に教えてくれたこと～（野口健さん／アルピニスト） <p>●閉校式</p>
参加者数	約350人
参加費用	<p>①個人チケット</p> <ul style="list-style-type: none"> ・1日のみの参加：3000円／1人・2日間の参加：5000円／1人 <p>②施設チケット</p> <ul style="list-style-type: none"> ・2日間の参加＋アーカイブ配信2週間：2万円／1施設

事業の名称	東淀川ドロップインランチ助成
事業種別	社会福祉事業（児童福祉事業）
主催	朝日新聞厚生文化事業団
後援等	
事業開始年度	2020 年度
事業の概要	<p>思いがけない妊娠や育児困難などに悩む女性を、ランチ会に招待して見守り、問題解決につなげる活動です。大阪市東淀川区で活動する pokkapoka と東淀川区役所が協力して行っています。「ドロップイン」とは「気軽に立ち寄る」という意味で、ランチ会という場で相談者にリラックスしてもらい、スタッフがその場で様々な生活や育児の悩みを聞き、その後のフォローにつなげる実効性のある活動に対して助成金を支給しています。</p> <p>通年（年間 10 回程度）、2021 年度は毎月 1 回、計 12 回開催しています。</p>
時期	
助成の目的	母子の孤立、ひきこもりや乳幼児の虐待を防ぐことを目的としていて、活動実績のある団体をサポートすることで母子の心身の健康を守ることに貢献しています。
助成団体	NPO 法人 女性と子育て支援グループ「pokkapoka」（大阪市）
助成した人数	
助成総額	50 万円
その他	



助産師らに見守られながら、親子でリラックスして過ごせるドロップインランチの様子。



簡単な工作など、楽しめるプログラムも用意している。

事業の名称	ひとり親家庭への親子で楽しむオンライン体験ツアー
事業種別	社会福祉事業（児童福祉事業）
主催	朝日新聞厚生文化事業団
後援等	特定非営利活動法人リトルワズ（共催）
事業開始年度	2020年度
事業の概要	ひとり親家庭を対象としたオンライン体験ツアーを21年2月に実施予定でしたが、ミャンマー情勢の影響で、延期となりました。ミャンマー情勢が好転しないため、代替ツアーを検討し、下記のように実施いたしました。
日時	2021年7月3日
場所	オンライン
事業の目的	厳しい生活状況にあるひとり親家庭の親子が心身ともにリフレッシュし楽しむこと、そして子どもに学びの機会を提供すること。
事業の内容	世界一周ツアーということで、ハノイ⇒ケアンズ⇒カッパドキア⇒ナイロビ⇒カイロの5都市を巡りました。参加者からは、Zoomのチャットを通じて、「元気を沢山もらえました！」「ありがとうございます」「勉強になりました」などの感想をいただきました。Zoom画面からは、親子で笑顔でツアーに参加していただいている様子を伺えました。
参加者数	ひとり親家庭の親子21組
参加費用	無料

事業の名称	オンライン講演会 学校現場における発達障害支援のこれから 「これから、ともに学ぶために」
事業種別	社会福祉事業（障害者福祉事業）
主催	朝日新聞厚生文化事業団
後援等	株式会社クリックネット（協力）
事業開始年度	2021年度
事業の概要	集団行動が苦手だったり、一風変わった行動をとることの多い子など、さまざまな特性のある子どもに、安心して学校生活を送るためにはどのような支援が必要か、また、クラスや学校全体に良い雰囲気を行き渡らせるためにはどうすれば良いかを考える講演会です。
日時	2022年2月19日（土）
場所	オンライン
事業の目的	「発達障害」の名が広く知られ、早期発見や療育の環境整備が進む一方、日常生活や初めての社会生活の場である学校においては、まだまだ混乱が起こりがちです。さまざまな特性のある子どもたちが分け隔てなく、「ともに学ぶため」に必要なことは何か、異なる立場から考えることを目的とします。
事業の内容	第一部 講師：木村泰子さん（大阪市立大空小学校・初代校長） 講演：「ふつうの子」って、いますか？ ～指導を支援に変えると「あの子」は変わる～ 第二部 講師：岩波明さん（昭和大学医学部精神医学講座主任教授、同大附属烏山病院長） 講演：先生の言うとおりに動かないのは「性格の問題」ではありません 第三部 対談、質疑応答 コーディネーター：宮坂麻子さん（朝日新聞社会部・編集委員） 参加者は、教職員や発達障害のある子どもの保護者、両者の橋渡しを務める専門職の人など。北海道から沖縄まで、40あまりの都道府県から参加がありました。
参加者数	353人
参加費用	無料



対談する木村泰子さんと岩波明さん

司会は宮坂麻子さん

事業の名称	子どもの立場全国フォーラム グループ運営者研修会
事業種別	社会福祉事業（障害者福祉事業）
主催	精神疾患の親をもつ子どもの会・こどもぴあ、朝日新聞厚生文化事業団
後援等	公益社団法人全国精神保健福祉会連合会（後援）、特定非営利活動法人地域精神保健福祉機構（後援）
事業開始年度	2021 年度
事業の概要	<p>全国で活動をしている、障害のある親やきょうだいをもつ当事者、家族の介護を担うヤングケアラーのグループの運営に携わっている人を対象にした研修交流会を開催しました。1 回目は、「心の動きを見つめる～あいまいな喪失について」というテーマで、小嶋リベカさん（国立がん研究センター中央病院緩和医療科ホスピタルプレイスタッフ・公認心理師）に講演をいただいた後、心の中に起こったことや、運営者として感じている迷いや悩みを語り合いました。2 回目は、早瀬昇さん（大阪ボランティア協会理事長）を講師に迎え、「活動を継続するための運営のポイント」をテーマに、みんなが無理なく楽しく関わっていけるようになる考え方や手段を学びました。また、アフター交流会も開催し、団体を超えてつながっていくことの可能性について、意見交換を行いました。</p>
日時	第 1 回：8 月 22 日 第 2 回：22 年 1 月 23 日 アフター交流会：3 月 5 日
場所	オンライン
事業の目的	<ul style="list-style-type: none"> ・ 障害のある親やきょうだいをもつ当事者のグループ、家族の介護を担うヤングケアラーのグループの、団体の枠を超えて支え合える関係づくり ・ グループ運営者のピアサポートの場とする ・ ピアサポートグループ、当事者活動の継続と発展を応援する
事業の内容	<p>第 1 回</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 講演「心の動きを見つめる～あいまいな喪失について」（小嶋リベカさん・国立がん研究センター中央病院緩和医療科ホスピタルプレイスタッフ、公認心理師） ・ 交流会 <p>第 2 回</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ ワークショップ（講義・グループワーク）「活動を継続するための運営のポイント」（早瀬昇さん・大阪ボランティア協会理事長）
参加者数	第 1 回：11 人 第 2 回：15 人
参加費用	無料

あいまいな喪失 (Ambiguous Loss)

存在と不在が不確実であり、解決することも、
 終結することもない喪失の状態

何を失うのか？
 ↓
 関係性
 (愛着の対象)



第 1 回研修会 小嶋リベカさんの講演の様子

1. 多様な志向を認め合うために
 (1) 仲間割れは、なぜ起こる？
 熱心なグループほど「仲間割れ」を
 しやすい！



第 2 回研修会 早瀬昇さんの講演の様子

事業の名称	精神疾患のある親に育てられた子どもの立場の「つどい」
事業種別	社会福祉事業（障害者福祉事業）
主催	精神疾患の親をもつ子どもの会・こどもぴあ、朝日新聞厚生文化事業団
後援等	
事業開始年度	2018年度
事業の概要	精神疾患の親をもつ子どもの会・こどもぴあ運営のもと、「子どもの立場」の人たちがオンライン上で集まり、自らの体験やこれまで誰にも話すことができなかった思いなど、一人で抱えてきたことを、グループにわかれて話しました。当事業団は運営をサポートしています。21年度は4回開催。そのうち2回は、オープンな会として、「子どもの立場」への理解を深めたいと考える支援者の立場の人も参加しました。
日時	①6月27日 ②9月12日 ③12月12日 ④22年3月13日
場所	オンライン
事業の目的	精神疾患のある親に育てられた子どもの立場の人が出会える場・安心して集える場をつくり、今現在困難な状況にある子どもたちがSOSを発するきっかけをつくっていく。 子どもの立場のピアサポート活動を後押しする。
事業の内容	・「こどもぴあ」運営メンバーによる体験発表 ・小グループにわかれての語り合い
参加者数	①6月27日=27人 ②9月12日=32人 ③12月12日=32人 ④3月13日=41人（いずれも運営メンバー含む）
参加費用	無料



「つどい」開催後のこどもぴあ運営メンバー。

事業の名称	精神疾患のある親をもつ子どもの立場の「家族学習会」
事業種別	社会福祉事業（障害者福祉事業）
主催	精神疾患の親をもつ子どもの会・こどもぴあ、朝日新聞厚生文化事業団
後援等	公益社団法人 全国精神保健福祉会連合会（共催）
事業開始年度	2018年度
事業の概要	精神疾患のある親をもつ子どもの立場の人が少人数で集まり、1回3時間、全5回を通して、精神疾患や各年齢期での体験の例などが記載されているテキストにそって自身の体験を振り返り、参加者同士語り合う家族学習会。こどもぴあ運営のもと、5月～7月と10月～22年1月の2回、開催しました。学習会としては、初めてのオンラインでの開催でしたが、関東だけでなく、岡山や沖縄などからの参加もありました。学習会に参加して下さった皆さんは、終了後も、こどもぴあの運営にかかわる仲間として、つながっています。
日時	第1回 Zoom 学習会：5月15日、23日、6月6日、13日、7月4日 第2回 Zoom 学習会：10月24日、11月21日、28日、12月19日、22年1月13日
場所	オンライン
事業の目的	精神疾患のある親に育てられた子どもの立場の人が、仲間とつながり、生き立ちや経験を語り合い、自らの人生を豊かにするきっかけとする。
事業の内容	・テキストの輪読 ・各年齢期での体験を振り返り、思いを語り合う
参加者数	第1回 Zoom 学習会：7人 第2回 Zoom 学習会：8人
参加費用	2500円



「学習会」開催後、参加者と撮影。

事業の名称	第38回全国高校生の手話によるスピーチコンテスト
事業種別	社会福祉事業（障害者福祉事業）
主催	朝日新聞厚生文化事業団、一般財団法人全日本ろうあ連盟、株式会社朝日新聞社
後援等	公益社団法人東京聴覚障害者総合支援機構 東京都聴覚障害者連盟（協力）、厚生労働省、文部科学省、社会福祉法人テレビ朝日福祉文化事業団、一般社団法人日本手話通訳士協会、全国聾学校長会（後援）、日本電気株式会社（NEC）（協賛）
事業開始年度	1984年
事業の概要	<p>1984年から手話の普及とボランティア活動、福祉教育の推進を目的に始まった当事業は、2021年度で38回目を迎えました。弁論原稿での1次審査、課題文の手話スピーチ映像での2次審査は通常の通り実施しました（審査会は全てオンライン）。最終審査には、2次審査で選ばれた10名が進出し、5名が特別賞を受賞しました。</p> <p>※新型コロナウイルスの影響で会場開催を取りやめ、事前に提出された映像（弁論原稿をもとにした手話スピーチ）による最終審査を行いました。</p>
日時	4月1日（募集開始）、6月24日（一次審査）、7月28日（二次審査）、9月12日（最終審査）
場所	オンライン
事業の目的	手話の普及とボランティア活動、福祉教育の推進。
事業の内容	<p>【入賞者（特別賞）一覧】（敬称略）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・福島県・東日本国際大学附属昌平高等学校 3年 清水詩 ・神奈川県・日本女子大学附属高等学校 2年 松田愛未 ・大阪府立北千里高等学校 2年 森健司 ・愛媛県・済美高等学校 3年 二神優 ・福岡県立福岡高等聴覚特別支援学校 3年 平嶋萌宇 <p>【最終審査出場者一覧】（敬称略）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・埼玉県立特別支援学校坂戸ろう学園 3年 徳永小雪 ・愛知県・桜花学園高等学校 3年 津田愛心 ・長野県屋代高等学校 3年 宮脇瑞季 ・愛媛県立松山聾学校 2年 永野彩夏 ・大分県・楊志館高等学校 3年 堤奏乃香
参加者数	95人（応募者）
参加費用	

事業の名称	聖明・朝日盲大学生奨学金
事業種別	社会福祉事業（障害者福祉事業）
主催	社会福祉法人聖明福祉協会、朝日新聞厚生文化事業団
後援等	
事業開始年度	1969年
事業の概要	視覚障害のある学生を支援するための奨学金。
日時	
場所	
事業の目的	
事業の内容	奨学金として在学期間中に毎月4万円を貸与する。 2021年度の新奨学生として、2名への貸与を決定。
参加者数	
参加費用	

事業の名称	第 41 回朝日九州車いすバスケットボール選手権大会（佐賀市）
事業種別	社会福祉事業（障害者福祉事業）
主催	九州車いすバスケットボール連盟、朝日新聞厚生文化事業団
後援等	佐賀県（後援）、佐賀市（後援）、一般社団法人佐賀県バスケットボール協会（後援）、一般社団法人佐賀県障がい者スポーツ協会（後援）、その他
事業開始年度	1980 年
事業の概要	九州車椅子バスケットボール連盟に所属する 10 チーム前後が参加する大会で、当事業団は第 1 回大会から連盟とともに主催にあたり、助成金の支出等で大会運営を担ってきました。本大会は、「天皇杯 日本車いすバスケットボール選手権大会」に参加する九州地区代表チームを選出する予選会を兼ねた、九州・沖縄エリア最大の大会です。この九州地区予選会での上位 3 チームが西日本予選会への出場権を獲得し、西日本予選会での上位 3 チームが、その先の「天皇杯 日本選手権」へと進みます。
日時	12 月 4、5 日
場所	佐賀市立諸富文化体育館（佐賀県佐賀市）
事業の目的	障害者スポーツの振興と地域社会の障害者協力を推進し、同時に選手の体力の増強と社会参加の意欲を高め、選手間の交流を図り、地域住民が車いすバスケットボールを理解し、相互に交流することを目的としています。
事業の内容	九州・沖縄から参加の 10 チームがトーナメント方式で熱戦を繰り広げました。昨年はコロナ感染の拡大で中止となったため 2 年ぶりの開催。また夏に開催された東京パラリンピック大会で、日本男子チームが銀メダルを獲得したこともあり、選手のモチベーションは非常に高いものがありました。熱戦の結果、優勝は「ライジングゼファーフクオカ Wheelchair」（福岡）、2 位「SEASIRS（シーサーズ）」（沖縄）、3 位に「長崎サンライズ」（長崎）が決まりました。上位 3 チームは、「日本選手権大会西日本 2 次予選」への出場権を獲得しています。
参加者数	九州・沖縄から 10 チームが参加
参加費用	各チーム 1 万 5000 円



事業の名称	まかせて「おしごと、商品」 みつかる「はたらく、いばしょ」 地域つながり BOOK 作成
事業種別	社会福祉事業（障害者福祉事業）
主催	朝日新聞厚生文化事業団
後援等	
事業開始年度	2018 年度
事業の概要	当事業団の本部がある東京都中央区。同じ区内で活動する、障害者就労支援施設等事業所が提供する商品やサービスを紹介する冊子を作成しました。手間のかかる DM 発送作業や清掃業務、障害者の雇用に関する相談、企業の記念品づくり、身体に優しいヴィーガンスイーツや配達可能なランチボックスの紹介など、さまざまなサービスと商品を紹介しています。これらサービスや商品の対価は、事業所で働く利用者の報酬になります。
日時	
場所	
事業の目的	障害のある人の社会での活躍を後押しする、障害者就労支援施設等事業所。これらの事業所が提供する高品質で廉価な商品やサービスを、地域の人に広く知ってもらい、利用してもらうことを目的とします。
事業の内容	冊子で紹介している主な事業所（所在地）とサービス、商品 <ul style="list-style-type: none"> ・アイビー（新富町）—事務作業、軽作業 ・アリストランプ（築地）—菓子製造販売、ペット用菓子製造販売、カフェ ・エヌフィットキャリアカレッジ日本橋（人形町）—事務作業、軽作業 ・クローバーズ・ピア日本橋（浜町）—フェルト雑貨製作、カフェ ・コンフィデンス日本橋（室町）—事務作業、軽作業 ・さわやかワーク中央（東日本橋）—点字名刺作成、軽作業、雑貨製作 ・中央区立福祉センター作業室（明石町）—軽作業、雑貨製作 ・ナチュラルプランツ・サポート（大伝馬町）—軽作業、清掃作業 ・リバーサイドつつじ（月島）—軽作業、雑貨製作 ・中央区立レインボーハウス明石（明石町）—パン製造販売、カフェ 冊子をご希望の方は、当事業団までご連絡ください。
参加者数	
参加費用	



事業の名称	第40回肢体不自由児・者の美術展／デジタル写真展
事業種別	社会福祉事業（障害者福祉事業）
主催	社会福祉法人日本肢体不自由児協会、各道府県肢体不自由児協会
後援等	厚生労働省、文部科学省、東京都、朝日新聞厚生文化事業団など
事業開始年度	
事業の概要	全国の肢体不自由児・者から486点の絵画、コンピュータアート、書の応募作品が寄せられ、これらの中から特賞、優秀賞、佳作、努力賞の計112点、デジタル写真展では959点の応募作品の中から特賞、金賞、銀賞、銅賞の計110点が選ばれました。前回に引き続き、表彰式はオンライン会議ツール「Zoom」を利用し行われ、受賞者は学校や自宅などから式に参加しました。
日時	12月15日
場所	東京芸術劇場（東京都豊島区）
事業の目的	肢体不自由児・者の生きがいづくりと、障害のある人に対する理解を深めることを目的としています。
事業の内容	<p>当事業団からは、特賞のうち2作品（絵画、書）に朝日新聞厚生文化事業団賞を贈りました。受賞したのは福田一輝さん（東京都立八王子東特別支援学校中学部3年、絵画「富士講の富士登山」と、小林千夏さん（愛知・豊川市立牛久保小6年、書「支え合い」）の二人。</p> <p>当事業団の是永一好事務局長は、福田さんの作品について「色使いに一目で惹かれた作品。特に、足元の大地の部分に自然の力強さがよく表現されていると感じました」、小林さんの書は「たくましい筆致。『支え合い』は、私たちも大切に感じている言葉。だれもが支え合える社会を目指して一緒に頑張りましょう」と、選んだ理由を述べました。</p>
参加者数	
参加費用	無料



福田一輝さんを表彰する。



小林千夏さんと入賞作の「支え合い」

事業の名称	府中町認知症フレンドリープロジェクト
事業種別	社会福祉事業（高齢者福祉事業）
主催	朝日新聞厚生文化事業団、府中町社会福祉協議会
後援等	
事業開始年度	2021 年度
事業の概要	認知症の基礎知識を学ぶリーフレットの製作・配布
日時	10 月初旬
場所	広島県府中町
事業の目的	町民に対し認知症の差別や偏見を解消するため、認知症の正しい理解を促すリーフレットを、社会福祉協議会、地域包括支援センターや高齢者施設の関係者らと製作しました。
事業の内容	府中町の人口は5万2000人で、最近ではベッドタウンとして子育て世代に人気があります。一方で古くから町内で暮らす高齢の住民も多く、認知症の人は2200人います。リーフレットの内容は、認知症の当事者や家族と日ごろから接している地域包括支援センターの職員らと意見交換し、町民に何を訴えればいいのか議論しました。その結果「認知症＝人生の終わり」を払拭したい。「家族も本人も認知症だということを隠して診断が遅れる」ケースが多いことがわかりました。そこで認知症に対する差別や偏見を取り除き、認知症の正しい理解を促す内容にすることが決まり、タイトルも「認知症になっても（ならなくても）住み慣れた府中町で暮らすために」と、認知症の当事者だけでなく支える人にも興味を持ってもらえる表現にしました。10月には4ページのリーフレットが完成し、町内2万3000戸に無料配布しました。社会福祉協議会には「リーフレットを読んで認知症のことがよくわかった」「みんなで認知症の人をサポートしなければいけない」といった意見が寄せられているそうです。
参加者数	
参加費用	無料

府中町で暮らしつつあったのは、まわりの人がようやうにわけてくれることだけ (80歳・女性)

認知症の人も一緒に暮らす社会とは？

認知症はだれもがなりうるものであり、家族や身近な人が認知症になることを含め、多くの人にとって身近なものとなっている。認知症の発症を遅らせ、認知症になっても希望を持って日常生活を送らせる社会を目指し、認知症の視点を重視しながら、「共生」と「予防」を車の両輪として施策を推進していく。

※「予防」とは、「認知症にならない」という意味ではなく、「認知症になるのを遅らせる」「認知症になっても進行を遅やかにする」という意味です
 認知症が令和4年に発表された「認知症施策推進大綱」から

府中町には1320人の認知症の人がいます（府中町高齢者福祉計画・第5期介護保険事業計画）から、その数は今後、増加することが予想されます。たとえ認知症と診断されても、その人の人生がそこで終わるわけではありません。認知症の初期の状態では、これまでと同じ暮らしを続けることができはるはずですが、そのためには、認知症の人が感じる様々な物理的、心理的な「バリア」を取り除くことが重要です。子どもから大人まで、みんなが認知症の人の気持ちに寄り添って、偏見を持たずに接する……。そんな府中町になることを目指しましょう。



ニッポウ古美術家は情をこめて、これぞ我が家の認知症の場所、そうせんと僕も体もなまっていまうよ (80歳・男性)

編集委員 藤山 隆（府中町社会福祉協議会 生活支援コーディネーター）
 府中町の認知症施策推進大綱（令和4年）の編 池田 浩
 山崎 隆、山崎 隆（朝日新聞厚生文化事業団）
 デザイン 竹田 明彦

認知症や介護についての相談先

認知症のことや家族の介護について悩みや不安を感じたとき、早めに相談して支援を受けることが大切です。府中町では次の2箇所での認知症の相談を受け付けています。認知症の専門医のいる医師相談の電話提供や介護サービス、地域の支援機関の紹介や、認知症（若年性認知症も含む）の人やその家族を支援する相談も行っています。



府中町高齢介護課 高齢者福祉係
 （府中町役場2階）
 〒735-8686 府中町大通3丁目5-1
 ☎(082) 286-3256

府中町地域包括支援センター
 〒735-0023 府中町浜田本町5-25
 ☎(082) 285-7290

認知症になっても

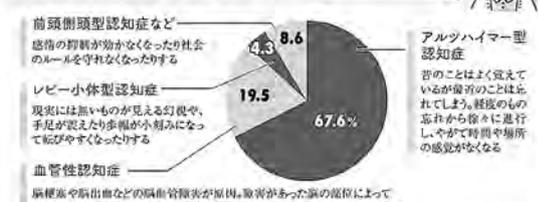
～住み慣れた府中町で暮らすために～

認知症ってなに？
 認知症は脳の病気や障害などが原因で、認知機能が低下し、日常生活全般に支障が出てくる状態をいいます。認知症という病気はありません。咳や鼻水が出る症状を風邪と呼ぶのと同じです。

企業 製作 社会福祉法人 府中町社会福祉協議会 朝日新聞厚生文化事業団

2024年10月発行

認知症にはどんな種類があるの？



日本の65歳以上の認知症の人の数は2020年には約600万人と推計され、2025年には約700万人（高齢者の5人に1人）が認知症になると予想されています。若くは脳血管障害やアルツハイマー病のために認知症を発症することがあります。65歳未満で発症した場合は若年性認知症とよばれています。認知症は非常に軽い症状から始まり徐々に進行していきます。

一人ひとりの症状が異なり、全く同じ状態の人はいません。早期の診断、治療が進行を遅らせることにつながります。

認知症の症状ってどんなもの？

- 人にいふ言えんがー一人で出かけるよ (62歳・女性)
- 人にお言えんがー一人で出かけるよ (62歳・女性)
- 中核症状
- 記憶障害：物事を覚えられなくなったり、思い出せなくなる
 - 理解・判断力の障害：考えが単純になる。家電やAIなどが使えなくなる
 - 実行機能障害：計画や後取りをたてて行動できなくなる
 - 見当識障害：時間や場所、やがて入との感覚がわからなくなる
- 行動・心理症状
- 妄想：物を盗まれたなど事実でないことを思い込む
 - 行方不明など：歩み遅くって帰りがわからなくなる
 - せん妄：落ち着きなく部屋のなかをうろたえる。椅子をこぼす
 - 抑うつ：気分が落ち込み無気力になる
 - 不潔行為：風呂に入らない。排泄物をもてあそぶ
 - 暴力行為：自分の気持ちをうまく伝えられないなど、感情をコントロールできない
 - 人格変化：誰かが近づいたら怒り始める
 - 幻覚：見えないものが見える。聞こえないものが聞こえる
- わからないことやできないことは増えていきますが、「楽しい」「悲しい」「寂しい」といった気持ちは残ります。

認知症の人の気持ちは？

認知症の人は自己表現が上手にできないことが多いため、不安や寂しさがあってもそれを伝えることができません。こうしたことが増えると、心理的に「取りこぼされた」「無気力がいる流れになりがちで、かえって認知症が進行することもあります。目の前にいる認知症の人は、もしかしたら自分の姿も認めません。見守る人たちが「自分事」として考えるようになれば、認知症の人を特別な存在として扱う意識が変わり、相手の立場に立って接することができるでしょう。

認知症の人の声に耳を傾け、人として尊重する姿勢は、その人の本来の姿を引き出せるかもしれません。

認知症の人にやさしい地域とは？

認知症の人の暮らしに大きな影響を与えるのは、地域の人の心です。商店、飲食店や交通機関など、それぞれの事業者が認知症の人にやさしい独自の取り組みを行う包括的な地域づくりを認知症フレンドリーコミュニティといいます。医療や介護の分野ではなくボランティア活動とも違う、認知症の人を地域社会の一員として受け入れる取り組みが世界中で進んでいます。

国内外で実際に行われている取り組み例！

事例 ①	事例 ②	事例 ③
スーパーやコンビニのレジ	バスのヘルプカード	建物内装の色やデザイン
小銭の識別や釣り銭の計算が困難になるので、専用のレジを設ける	降車したいバスをカードに記入し、車内に運転手に渡しておけば取外される	同色系を特別にするのが困難になるので、床・壁、手すり・扉、壁紙・便座の色を揃える

ごゆくりどうぞ
 みましたよ

やさしく分かります

知らなかった！
 ろも値ですりできることはありますか？

事業の名称	府中町認知症リーフレット完成記念フォーラム 「認知症になっても（ならなくても）、住み慣れた府中町で暮らすために」
事業種別	社会福祉事業（高齢者福祉事業）
主催	朝日新聞厚生文化事業団、府中町社会福祉協議会
後援等	
事業開始年度	2021 年度
事業の概要	リーフレット「認知症になっても（ならなくても）、住み慣れた府中町で暮らすために」の完成を記念して、オンラインフォーラムを開催しました。
日時	11月20日
場所	オンライン
事業の目的	認知症になっても安心して暮らせる地域づくりについて考えるオンラインフォーラムです。
事業の内容	<p>前半の記念講演のテーマは「認知症＝人生の終わりじゃない!」。タレントのハリー杉山さんが、認知症になった父親の介護を通じて考えたことを話しました。ハリーさんは最近では認知症や介護のことをテレビやYouTubeなどで積極的に発信しています。「自分が、もしくは大切な人が向きあうこととなったとしても、終わりになったとは思わないでください」と強く訴えました。</p> <p>後半は「人が変われば町が変わる」をテーマに、東京都町田市で認知症の人に就労の機会を提供するデイサービスを運営している東京都町田市のNPO法人理事長の前田隆行さんや、府中町の地域密着型特別養護老人ホームでケアマネジャーをしている日高義幸さん、府中町在住で認知症の夫を長年介護してきた女性が、府中町の課題や解決策について話し合いました。「特別でなく全国どこにでもある町」の府中町で、認知症になっても地域から切り離されず生き生きと暮らすために、それぞれの立場・経験から見えた悩みや戸惑い、解決したいこと、そのためにどんな行動ができるのかを話し合いました。進行役は前半、後半ともリエゾン地域福祉研究所代表の丸山法子さんが務めました。</p>
参加者数	420人
参加費用	無料



講演するハリー杉山さん(右)。
左は丸山法子さん



話し合う(右から)前田隆行さん、日高義幸さん、
府中町在住の女性、丸山法子さん＝11月20日、広島市

事業の名称	認知症カフェネットワークづくりミーティング
事業種別	社会福祉事業（高齢者福祉事業）
主催	朝日新聞厚生文化事業団
後援等	
事業開始年度	2021年度
事業の概要	助成事業やフォーラムを通じて知り合った認知症カフェの運営団体のネットワークを構築し、ともに「認知症になっても安心して暮らせるまち」をつくっていくことを目標に、全5回のオンラインミーティングや参加団体が開催する認知症カフェへのオンラインツアーを行いました。ミーティングでは、各団体の課題解決に向けて、力や知恵を持ち寄ったり、先行者に地域づくりの実践を学ぶために、一般社団法人Dフレンズ町田代表理事の松本礼子さん、まちの保健室の平田容子さんを講師にお招きし、「認知症とともに生きるまちを目指す町田市の取り組み」を聞いたりもしました。1年間の学びの集大成として、フォーラムの開催へつなげました。
日時	第1回：8月29日 第2回：9月30日 第3回：10月30日 オンラインツアー：11月25日 第4回：12月15日 第5回：22年1月16日
場所	オンライン
事業の目的	<ul style="list-style-type: none"> ・助成事業やフォーラムを通じて知り合った認知症カフェの運営団体が、今後面につながり、そこで持ち寄ったアイデアを各地域での実践につなげ、活動を発展していけるようにする ・各団体の持っている力で他団体・他地域に貢献できる場をつくり、「人材」「技術」「知識」の共有を目指す ・運営団体のつながりの中に、関係団体が加わり、ネットワークが大きくなり、ともに「認知症になっても安心して暮らせるまち」をつくっていく
事業の内容	<p>以下のテーマで研修や意見交換を行ったほか、オンラインツアーを実施</p> <p>第1回：「オンラインでの対話のいろはを体験する」</p> <p>第2回：「課題解決に向けて力や知恵を持ち寄る」</p> <p>第3回：「先行者に地域づくりの実践を学ぶ」～講演「認知症とともに生きるまちを目指す町田市の取り組み」</p> <p>第4回：「オンラインネットワークをどう生かしていくか？」</p> <p>第5回：「成果報告会の企画をブラッシュアップする」</p> <p>オンラインツアー：ももとせサロンオンラインツアー in 成田 (配信協力＝うたせ認知症を考える会)</p>
参加者数	ネットワーク参加メンバー：21人
参加費用	無料

事業の名称	フォーラム「認知症カフェからの出発」Next ～認知症とともに生きるまちの気風をつくっていくために～
事業種別	社会福祉事業（高齢者福祉事業）
主催	朝日新聞厚生文化事業団、認知症カフェからの出発 Next 実行委員会
後援等	ラボラトリオ株式会社（協力）
事業開始年度	2017年度
事業の概要	<p>「認知症とともに生きるまちの気風をつくっていくために」をテーマに開催。1年をかけてネットワークを構築してきたメンバーが実行委員となり、連続ミーティングの集大成としてともに企画、運営を行いました。</p> <p>徳田雄人さん（株式会社DFCパートナーズ代表取締役）による基調講演や福岡市社会福祉協議会、北海道滝川市で活動をする江部乙まちづくりコミュニティ行動隊女子部による先行事例紹介のほか、「ヒト・モノ・コトから考える『認知症とともに生きるまち』の風景」をテーマに、実行委員会のメンバーが進行を担当した分科会を行いました。分科会では、実行委員会で検討をした「認知症とともに生きるまちの風景」を元に、参加者とともに意見交換を行い、まちづくりにについて考えました。</p>
日時	2022年2月26日
場所	オンライン
事業の目的	<ul style="list-style-type: none"> ・全国の実践をヒントに、各地での、認知症とともに生きるまちを目指した活動につなげる ・ネットワーク構築のための連続ミーティング参加メンバーが、1年間の交流、意見交換、学びを通して見えてきたこと（成果、課題）を広く共有し、どの団体にとっても有益な新たな解決策を探る ・より多くのアイデアが生まれるよう、団体のつながり強化とネットワークメンバーの拡大をはかり、気軽に参加、情報交換できるネットワークに発展させる
事業の内容	<ul style="list-style-type: none"> ・基調講演「つなぐ、協働～認知症とともに生きるまちを目指して」（徳田雄人さん・株式会社DFCパートナーズ代表取締役） ・先行事例紹介 <ol style="list-style-type: none"> ①「はなれてもつながる」アプリ開発など、制度の狭間を埋める仕組みづくり（栗田将行さん・福岡市社会福祉協議会 事業開発課） ②「駅カフェ」からスタートした、地域の中で共感を広げる取り組み（磯敏子さん・江部乙まちづくりコミュニティ行動隊女子部ほか） ・分科会「ヒト・モノ・コトから考える『認知症とともに生きるまち』の風景」（進行：ラボラトリオ株式会社代表取締役・南伸太郎さん） <p>分科会1：持続のための「小さな 協力、共感、資金」の集め方を考えよう 分科会2：コロナ禍、高齢化社会の中でみんながつながる「オンライン」の活用方法を考えよう</p>
参加者数	151人
参加費用	無料

事業の名称	認知症フレンドリーキッズ授業
事業種別	社会福祉事業（高齢者福祉事業）
主催	朝日新聞厚生文化事業団
後援等	
事業開始年度	2019年度
事業の概要	小学校高学年を対象にした、認知症について学ぶ特別授業です。特徴はバーチャルリアリティーを使った認知症の人が見る世界の疑似体験です。
日時	2021年度の実施 ①岐阜県土岐市高齢介護課（リモート授業＝8月6日）②兵庫県養父市高柳小学校4年生（12月10日）③大分県別府市立南小学校6年生（12月23日）④大阪市立淀商業高校1年生（22年1月14日）⑤福井県若狭町立三宅小学校4～6年生（リモート授業＝22年1月21日）⑥大阪府守口市立梶小学校4、5年生（22年1月28日）⑦大阪府熊取町社会福祉協議会（22年3月28日）
場所	
事業の目的	認知症について先入観を持たない子どもの時に、認知症のことを正しく学び、認知症に対して差別や偏見を持たない、認知症の人と地域とともに暮らす「共生社会」について考えます。
事業の内容	認知症になっても当事者が住み慣れた地域でこれまでどおり暮らしていくには、住民や地域の環境がどのように変わればいいのかを学びます。NTTラーニングシステムズがキッズ授業のために開発したスマホを使ったバーチャルリアリティー（VR）一括制御システムで、突然、自分の居場所がわからなくなったり、階段を降りるのに苦労したりする様子を疑似体験します。授業は3つのパートに分かれていて、最初にテキストやスライド資料を見ながら、認知症についての基礎知識を学びます。次にVRを視聴し、最後は授業で学んだ「認知症の人の気持ち」「サポートする人は何ができるか」「認知症の人にやさしい店やサービス」を自分たちで考えてポスターを作り発表します。
参加者数	307人
参加費用	無料



スマホを使ってVRを視聴する小学生＝12月23日、大分県別府市立南小

事業の名称	朝日のあたる家
事業種別	社会福祉事業（高齢者福祉事業）
主催	朝日新聞厚生文化事業団、NPO 法人福祉フォーラム・東北
後援等	
事業開始年度	2012 年度
事業の概要	朝日のあたる家は、当事業団の震災救援事業に寄せられた寄付金により、13年2月に誰でも気軽に立ち寄り、情報交換をしたり地域に根ざしたイベントを開催する場として岩手県陸前高田市米崎町に開設され、これまでNPO法人「福祉フォーラム・東北」の方々と共に歩みを進めて参りました。今年で、みなさまのご支援に支えられ9周年を迎えました。
日時	
場所	岩手県陸前高田市
事業の目的	東日本大震災被災地復興支援事業として実施しています。陸前高田市の住民の方々はもちろんですが、地域の関係機関の方々ともさらに連携を深めながら、朝日のあたる家が地域の資源として根付き、豊かな社会作りに寄与できるような取り組みを進めています。
事業の内容	<p>朝日のあたる家では、地域の方々の交流の場として、来られた方が心地よく過ごせるような雰囲気づくりを目指しながら、地域の方々と一緒に数々のプログラムを開催しています。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「アップルカフェ（認知症カフェ）」 認知症の方やそのご家族、地域の方に自由にご参加いただき、認知症の方が住み慣れた地域での暮らしを継続できるようなつどいの場 ・「みんなでごはん」 食べる・作る・会う・参加するすべての楽しみを味わいながら元気を持続していくことを願い開催。 ・「いきいき百歳体操」 身体機能の維持だけでなく、心の豊かさを作り上げる。 ・「生き活き朝日」（陸前高田市通所型サービスB事業） 17年度より実施。百歳体操や交流活動などを開催。 ・そのほかにも、手芸や囲碁・将棋などのサロンや、障がいのある方々がコーヒーを淹れておもてなしする「ほっとカフェ」、館長による「健康相談」なども開催。
参加者数	3113 人
参加費用	原則無料（一部イベントは有料）

東日本大震災へのご寄付、21年度は833万円

事業団の東日本大震災救援事業へ21年度に寄せられたご寄付は138件、833万5999円に上りました。

東日本大震災救援募金（震災直後から12年3月末まで実施）も含めたご寄付の累計は、22年3月末で約9万件、総額37億5866万6139円となりました。

【年度別】

- 10年度：17億1703万9856円
- 11年度：17億9627万3050円
- 12年度：1億1362万4052円
- 13年度：4572万1384円
- 14年度：2359万9869円
- 15年度：1847万7091円
- 16年度：955万8676円
- 17年度：767万8278円
- 18年度：774万7348円
- 19年度：530万5268円
- 20年度：326万1002円



朝日のあたる家全景



いきいき百歳体操



ほっとカフェ



囲碁サロン

公益事業

■福祉啓発・公衆衛生事業

自殺予防公開講座	32
西部朝日福祉助成金	33
第73回保健文化賞	34

■チャリティー事業

朝日チャリティー美術展 東京大阪合同展	35
朝日チャリティー色紙展	36

例年実施していた以下のチャリティー事業は、新型コロナウイルスの感染状況を受け、2年連続で中止となりました。

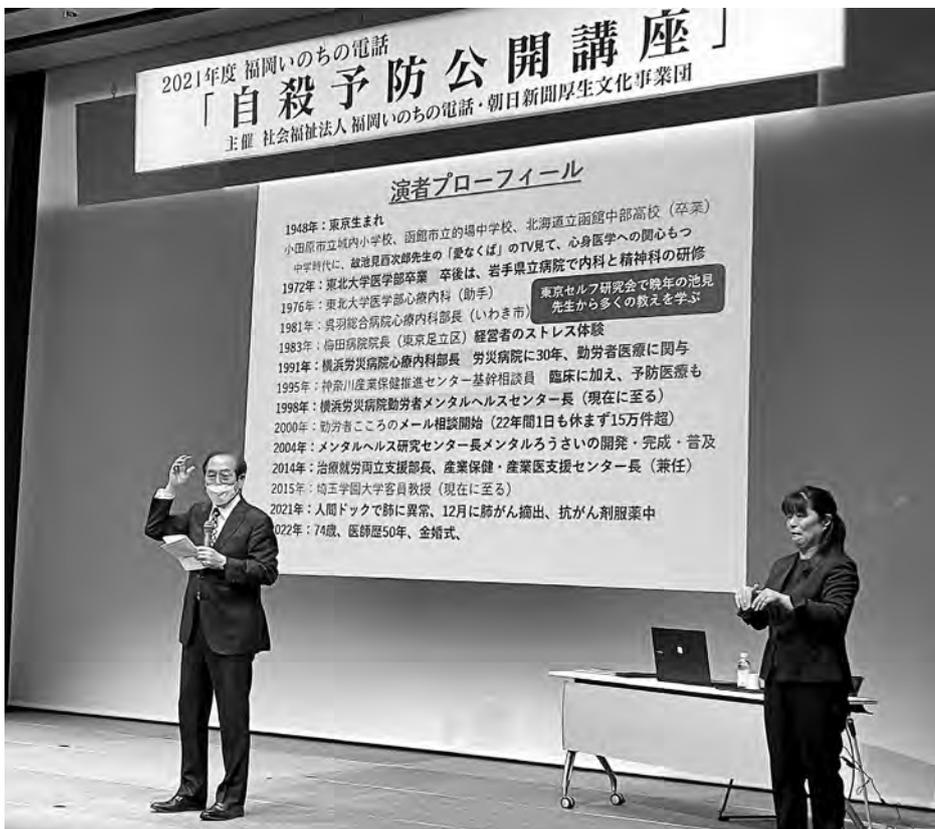
「各派合同三曲演奏会」(大阪)

「チャリティーコンサート メサイア」(東京)

「洋舞合同祭」(大阪)

「各流合同茶会」(大阪)

事業の名称	自殺予防公開講座
事業種別	公益事業（福祉啓発・公衆衛生事業）
主催	朝日新聞厚生文化事業団、社会福祉法人福岡いのちの電話
後援等	福岡県（後援）、福岡市（後援）、九州朝日放送（後援）、朝日新聞社（後援）
事業開始年度	2005年から実施。
事業の概要	福岡市内の会場で年一回、外部の講師を招き「いのちの大切さ」「生きることの意味」など自殺の予防につながる講演会を2005年から実施し、今回17回目。講演は無料で事前申し込み制で、一般の方とともに「いのちの電話」のボランティアスタッフも多く参加しています。
日時	2022年3月20日（日）14:00～15:30
場所	レソラホール（福岡市中央区天神）
事業の目的	自殺予防の啓発活動を主要な目的として、「いのちの電話」の電話応答のボランティアスタッフのモチベーションのアップ、電話・メール応答のスキル向上にもつなげています。
事業の内容	講師＝山本晴義さん（横浜労災病院勤労者メンタルヘルスセンター長）による講演「コロナ禍のメンタルヘルス～ストレス一日決算のすすめ～」
参加者数	120名
参加費用	無料



講演する山本晴義さん（右は手話通訳者）。

事業の名称	西部朝日福祉助成金
事業種別	公益事業（福祉啓発・公衆衛生事業）
主催	朝日新聞厚生文化事業団
後援等	
事業開始年度	2005 年度以前
事業の概要	「福祉啓発推進事業」として、「社会福祉法人福岡いのちの電話」「社会福祉法人北九州いのちの電話」の2団体へ助成金を支給。「児童福祉事業」として、「公益社団法人福岡県交通遺児を支える会」に対して助成金を支給しています。
時期	年1回（1月に申請書の提出を受け、3月に支給）
助成の目的	地域で社会福祉事業を継続的に続けている団体を支援しています。用途は問わず、運営費として活用してもらうことで、各団体から喜ばれています。
助成団体	<ul style="list-style-type: none"> ・社会福祉法人福岡いのちの電話（福岡市中央区舞鶴 2-7-7）15万円 ・社会福祉法人北九州いのちの電話（北九州市小倉北区井堀 5-1-3）15万円 ・公益社団法人福岡県交通遺児を支える会（福岡市中央区天神 5-5-8）15万円
助成した人数	団体に対する助成
助成総額	45万円
その他	各団体ともに、民間からの寄付や行政からの助成金などを原資に活動していますが、2020年度以降はコロナ禍で民間法人からの寄付が減額となり、収入面が厳しくなったとのこと。また、コロナの感染拡大のため、通常できていた活動が制約されることが多々ありました。一方で、いのちの電話の2団体では、コロナの影響もあり、相談件数が増加しています。



西部朝日福祉助成金の目録を受け取った各団体の代表者。
 左から福岡県交通遺児を支える会（月原日出男事務局長）、福岡いのちの電話（河邊正一事務局長）、
 北九州いのちの電話（中村純理事長、川尻正之事務局長）。

事業の名称	第73回保健文化賞
事業種別	公益事業（福祉啓発・公衆衛生事業）
主催	第一生命保険株式会社
後援等	朝日新聞厚生文化事業団（後援）、厚生労働省（後援）、社会福祉法人NHK厚生文化事業団（後援）
事業開始年度	1950年度
事業の概要	健康増進・疾病予防などの保健衛生分野、高齢者・障害者支援の保健福祉分野、少子化対策等、地域に密着した地道で身近な活動や、実際的な活動を行っている団体や個人を表彰する。 受賞者には、感謝状、賞金（団体200万円、個人100万円）、朝日新聞厚生文化事業団賞（トロフィー）などが贈られる。
日時	2月1日～4月15日（募集）、12月20日（贈呈式）
場所	明治記念館（東京都千代田区）
事業の目的	保健衛生に従事する方々の功績や労苦に対し、感謝と敬意をささげる。
事業の内容	第73回受賞者 【団体】3keys（東京都）▽Fine（同）▽快適な排尿をめざす全国ネットの会（京都府）▽大阪府立大学大学院看護学研究科セクシュアリティ教育プロジェクト（大阪府）▽プール・ボランティア（同）▽アイルコート（香川県）▽長崎県薬剤師会▽別府市医師会（大分県）▽メッシュ・サポート（沖縄県） 【個人】須藤英毅（北海道）▽金子鮎子（東京都）▽石渡千代（神奈川県）▽市川恵子（同）▽比嘉政昭（沖縄県） 贈呈式は、コロナ禍で中止となった第72回の受賞者と合同で行った。
参加者数	
参加費用	



第72回の受賞者



第73回の受賞者

事業の名称	朝日チャリティー美術展 東京大阪合同展
事業種別	公益事業（チャリティー事業）
主催	朝日新聞厚生文化事業団、朝日新聞社
後援等	
事業開始年度	臨時開催
事業の概要	<p>日本画家、洋画家、陶芸家などの美術家の出品作品をインターネットで展示販売し、収益を社会福祉事業にあてるチャリティー展。</p> <p>本展は、2020年度の開催を計画していましたが、新型コロナウイルスの状況を鑑みて開催を延期していたものです。また、会期中に東京、大阪で予定していた実際の展示会は中止しました。</p>
日時	5月10日～25日
場所	インターネット開催
事業の目的	収益を社会福祉事業に充てる。
事業の内容	<p>約180作品をインターネットにて展示し、サイレントオークション形式で販売。</p> <p>主な出品作家 石踊達哉、岩波昭彦、永樂善五郎、大津英敏、大矢十四彦、大矢紀、岡信孝、黒木国昭、鈴木爽司、千住博、谷川泰宏、中島潔、中村宗弘、那波多目功一、福井江太郎、藤原秀一、松本高明（敬称略）</p>
参加者数	期間中の投票数 392件
参加費用	
収入	落札総額 2577万3000円

事業の名称	朝日チャリティー色紙展
事業種別	公益事業（チャリティー事業）
主催	朝日新聞厚生文化事業団、朝日新聞社
後援等	
事業開始年度	2020年度
事業の概要	著名人や漫画家の方々から寄贈された色紙を販売し、収益を社会福祉事業にあてるチャリティー色紙展。
日時	2022年1月20日～2月4日
場所	インターネット開催
事業の目的	収益を社会福祉事業に充てる。
事業の内容	81名の著名人や漫画家の方々から寄贈された109作品を、インターネットで、サイレントオークション形式で販売しました（入札開始価格は一律2万円）。 主な寄贈者 伊藤美誠、上野道善、魚豊、王貞治、かわぐちかいじ、北見けんいち、小林有吾、小山愛子、佐藤邦雄、萩尾望都、松本大洋、美樹本晴彦、水谷隼、三田紀房、森清範、安彦良和、山村東、和久井健（敬称略）
参加者数	期間中の入札数 1200件
参加費用	
収入	落札総額 886万6000円

朝日福祉ガイド 本・DVD

朝日福祉ガイドブック

- ・ 四行からはじめる遺言作成 Q & A 1,320 円
- ・ 生き方、逝き方ガイドブック 1,320 円
- ・ なるほど高次脳機能障害 1,320 円
- ・ みんなのうつ 1,100 円
- ・ 認知症とともに 1,100 円
- ・ 自閉症の人たちを支援するということ 880 円
- ・ 自閉症のひとたちへの援助システム 550 円
- ・ 100%あらかん 660 円
- ・ くるまいす—第3改訂版 330 円
- ・ 新・川崎病がわかる本 改訂増補版 550 円
- ・ 精神障害者のホームヘルプサービス 880 円
- ・ きみといっしょに 550 円

朝日福祉ガイド DVD

- ・ 自閉症の人が求める支援～よくわかる自立のためのアイデア～
全3巻セット 10,890 円、各巻 4,400 円
- ・ 自閉症の人が見ている世界～自閉症の人を正しく理解する～
全3巻セット 10,890 円、各巻 4,400 円
- ・ 自閉症の子どもの評価 生活スキル編
全4巻セット 18,480 円、各巻 4,950 円
- ・ 自閉症の子どもの自立課題
全3巻セット 13,860 円、各巻 4,950 円
- ・ TEACCH プログラムシリーズ～米国ノースカロライナ州にみる自閉症治療教育～
各巻 3,080 円
自閉症児の明日のために～TEACCH のねらいと考え方
親のための TEACCH プログラム
教師のための TEACCH プログラム
青年期・成人期の TEACCH プログラム

※本・DVD とともに価格はいずれも税込。

主な後援・協賛・協力事業一覧

日程	催事		
	主催者 ▼会場		
■東京事務所			
5/29・30	第36回 DPI 日本会議全国集会 In Tokyo DPI 日本会議 ▼オンライン		後援 助成
7/13	第51回朗読録音奉仕者感謝行事 鉄道弘済会、日本盲人福祉委員会 ▼オンライン		後援
7/27・30	関東聾学校バレーボール大会 関東聾学校体育連盟 ▼上尾市民体育館（埼玉県上尾市）		後援
9/4・11・18 他	第35期療育音楽・音楽療法指導者養成研修会 東京ミュージック・ボランティア協会 ▼「みんなの家'77」（東京都小平市）ほか		後援
9/8	令和3年度 全国子ども家庭養育支援地域ネットワークセミナー 全国子ども家庭養育支援研究会 ▼レムブランドホテル大分（大分市）		後援
9/18	東京光の家チャリティーコンサート 愛のサウンドフェスティバル 東京光の家 ▼ひの煉瓦ホール（東京都日野市）		後援
10/7・8	第13回全国精神保健福祉大会 全国精神保健福祉会連合会（みんなネット） ▼調布市文化会館（東京都調布市）ほか		後援
10/8・9	第27回日本自閉症協会 全国大会佐賀大会 日本自閉症協会・佐賀県自閉症協会 ▼佐賀市文化会館		後援
10/8～10	第46回ろう社会人軟式野球全国大会 全日本ろう社会人軟式野球連盟 ▼リブワーク藤崎台野球場ほか（熊本県）		後援
10/16・17	リカバリー全国フォーラム 2021 地域精神保健福祉機構 ▼オンライン		後援
10/24	第19回高校生福祉文化賞 エッセイコンテスト 朝日新聞名古屋本社、日本福祉大学 ▼朝日新聞名古屋本社（名古屋市）		後援
10/29	きょうされん 第44回全国大会 きょうされん ▼オンライン		後援
11/5～7	第44回日本スリーデーマーチ 第44回日本スリーデーマーチ実行委員会 ▼比企丘陵一帯（埼玉県東松山市）		後援
11/10～12	第48回国際福祉機器展 H. C. R2021 全国社会福祉協議会 ▼東京ビッグサイト（東京都江東区）		後援
11/13	第18回本間一夫文化賞 日本点字図書館 ▼日本点字図書館（東京都新宿区）		後援
11/13	第42回全国歯科保健大会 厚生労働省、日本歯科医師会ほか ▼メディキット県民文化センター（宮崎市）		後援
11/27	第5回全国視覚障害者囲碁大会 日本点字図書館、日本福祉囲碁協会 ▼リフレッシュ氷川（東京都渋谷区）		協賛 助成
12/6～8	第59回弘済学園 わたしたちが創る展 鉄道弘済会、東京都社会福祉協議会 ▼JR 東京駅動輪の広場（東京都千代田区）		後援
12/24	70回東京都社会福祉大会 東京都、東京都社会福祉協議会、東京都共同募金会 ▼都庁大会議場（新宿区）		後援
1/6	第18回本間一夫記念日本点字図書館チャリティーコンサート 日本点字図書館 ▼東京文化会館（東京都台東区）		後援
1/21～23	天皇杯 第48回日本車いすバスケットボール選手権大会【中止】 日本車いすバスケットボール連盟ほか ▼武蔵野の森総合スポーツプラザ（東京都調布市）		後援 助成
2/28	日本児童養護実践学会 総会・第14回研究会 日本児童養護実践学会 ▼オンライン		後援
3/1～31	2022年「耳鼻咽喉科月間」 日本耳鼻咽喉科学会 ▼全国各地		後援
3/25	デフリンピック・フェスティバル 全日本ろうあ連盟スポーツ委員会、東京都聴覚障害者連盟 ▼都庁集会室（新宿区）		協力

日程	催事	
	主催者	▽会場

■大阪事務所

4/1～5/25	2021年度「地域保健福祉研究助成」「ボランティア活動助成」 大同生命厚生事業団 ▽大同生命大阪本社	後援
2021/04～ 2023/03	第57期 電話ボランティア養成講座 関西いのちの電話 ▽博愛社5階会議室（大阪市）、大阪府立羽衣青少年センター（高石市）	後援
8/3～8	第42回「子どもたちの讃歌」展【中止】 大阪府・市教育委員会、大阪特別支援教育諸学校造形教育研究会 ▽大阪市立美術館地下展示室1・2	後援
8/25～27	バリアフリー2021 大阪府社会福祉協議会、テレビ大阪、テレビ大阪エクスプロ ▽インテックス大阪（大阪市）	後援
9/5	「全国遷延性意識障害者・家族の会」関西・北海道ブロック講演会 全国遷延性意識障害者・家族の会 関西・北海道ブロック ▽Zoomによる遠隔講演会、北海道大学医学研究院脳神経外科研究室など	後援
9/5、10/16 ～17	自閉症の子どものキャンプ「のびのびキャンプ」【中止】 関西テレビ青少年育成事業団、アサヒキャンプ、大阪府青少年活動財団（ユースサービス大阪） ▽吉野宮滝野外学校（奈良県吉野町）	後援
10/10、 10/16、17	第39回スポーツフェスタ2021大阪 大阪知的障がい者スポーツ協会 ▽ヤンマースタジアム長居（大阪市・長居陸上競技場）ほか	後援
10/24	第49回全大阪ろうあ者文化祭 大阪聴力障害者協会 ▽大阪府立福祉情報コミュニケーションセンター	後援
11/7	身体障害者福祉法施行70周年・知的障害者福祉法施行60周年 大阪市記念大会 大阪市、大阪市身体障害者団体協議会、大阪市手をつなぐ育成会 ▽東成区民センター・大ホール（大阪市）	後援
11/13	2021年医療社会事業従事者講習会 大阪医療ソーシャルワーカー協会 ▽オンライン	後援
11/25	令和3年度大阪府社会福祉大会 大阪府社会福祉協議会、大阪府共同募金会 ▽大阪国際交流センター・大ホール	後援
2/19	第4回「茶の湯文化にふれる市民講座」【中止】 表千家同門会大阪支部 ▽朝日生命ホール（大阪市）	後援
2/26	第26回全国地域福祉施設研修会 日本地域福祉施設協議会、大阪市地域福祉施設協議会 ▽オンライン Zoomのみ開催。大阪市社会福祉研修・情報センター	後援
3/12	令和3年度「福祉の就職総合フェア SPRING in OSAKA」 大阪府、大阪府社会福祉協議会・大阪福祉人材支援センター ▽OMM（大阪市）	後援
3/20	第26回大阪YMCA インターナショナル・チャリティーラン2021 大阪YMCA、ワイズメンズクラブ国際協会西日本区阪和部・中西部 ▽大阪市花博記念公園鶴見緑地 山のエリア	後援

■西部事務所

4/11、6/12、 8/22	第11回全九州ろう社会人軟式野球大会 全九州ろう社会人軟式野球連盟 ▽福岡県・大牟田市延命球場ほか	後援
5/16、5/30	第59回北九州市障害者スポーツ大会 北九州市、北九州市身体障害者福祉協会ほか ▽北九州市立本城陸上競技場ほか	後援
6/2～7、 6/16～21	第55回西部伝統工芸展 日本工芸会ほか ▽福岡三越（福岡市）、鶴屋百貨店（熊本市）	協力
9/5	第58回チャリティー大茶会【中止】 茶道裏千家淡交会北九州支部 ▽小倉井筒屋新館（北九州市）	協力
11/10～ 12/10	第69回手足の不自由な子どもを育てる運動 福岡県肢体不自由児協会ほか ▽福岡市など福岡県内主要都市	後援
2/28～3/6	第40回「肢体不自由児・者の美術展」【中止】 福岡県肢体不自由児協会ほか ▽福岡市役所	後援

日程	催事	
	主催者 ▽会場	

■名古屋事務所

4月～ 10月	第73回赤い羽根協賛児童生徒作品コンクール 愛知県共同募金会ほか ▽NHK名古屋放送局センタービル	後援
4/17	令和3年度愛知県障害者スポーツ大会 愛知県、愛知県社会福祉協議会 ▽星ヶ丘ボウル（名古屋市）	後援
4/21～ 11/18	第18回名古屋市障害者スポーツ大会 名古屋市ほか ▽名古屋市障害者スポーツセンターほか	後援
5/20～22	第24回国際福祉健康産業展～ウェルフェア2021～【中止】 名古屋国際見本市委員会 ▽ポートメッセなごや（名古屋市）	後援
7/3	第58回心身障害児問題を考える集い あさみどりの会、あさみどりの風 ▽オンライン	後援
7/22～ 8/30	第38回福祉施設絵画展 名古屋市社会的養育施設協議会、名古屋市知的障害者福祉施設連絡協議会 ▽名古屋市障害者スポーツセンターほか	後援
7/25	40周年記念講演会【中止】 認知症と家族の会愛知県支部 ▽ウイंकあいち（名古屋市）	後援
9/10～ 12/10	第69回手足の不自由な子どもを育てる運動 愛知県肢体不自由児協会 ▽愛知県内	後援
11/21	第66回名古屋市身体障害者福祉大会 名古屋市身体障害者福祉連合会 ▽名身連福祉センター（名古屋市）など	後援
12/5	第60回愛知県身体障害者福祉大会 愛知県身体障害者福祉団体連合会 ▽清須市文化会館	後援
1月中旬	高次脳機能障害リハビリテーション講習会 同講習会実行委員会 ▽オンライン	後援
1/20	第69回愛知県社会福祉大会 愛知県社会福祉協議会ほか ▽愛知県体育館（名古屋市）	後援
2/8～2/13	第56回名古屋市身体障害者作品展示会 名古屋市身体障害者福祉連合会 ▽名古屋市博物館	後援
3/6	第40回耳の日記念聴覚障害者と県民の集い【中止】 愛知県聴覚障害者協会 ▽瀬戸市文化センター	後援

収支／寄付報告

2021年度 事業活動計算書より抜粋
(2021年4月1日～2022年3月31日)

単位：円

サービス活動収益		サービス活動費用	
事業収益		事業費用	
高齢者福祉事業	0	高齢者福祉事業	16,423,542
児童福祉事業	1,028,638	児童福祉事業	86,972,005
障害者福祉サービス等事業	0	障害者福祉サービス等事業	3,681,634
医療と公衆衛生	0	医療と公衆衛生	766,147
朝日福祉ガイド (DVD 他)	2,106,697	福祉啓発推進	688,265
チャリティー事業	30,834,848	朝日福祉ガイド (DVD 他)	1,008,490
雑収入	6,800	チャリティー事業	21,147,712
経常経費寄付金収益	762,303,730		
その他の収益	473,280		
		人件費	186,017,351
		事務費	63,373,491
		減価償却費	412,305
サービス活動外収益		サービス活動外費用	
受取利息配当金収益	285,689		
		経常増減差額	416,548,740
合計	797,039,682	合計	797,039,682

詳細は、事業団のホームページをご覧ください。

中期計画 2020 ～新しい福祉のカタチをめざして～

はじめに

近年の社会情勢の変化、とくに社会福祉の領域における変化は、かつてないほど急激なものとなっています。格差の広がりによって地域に要援護者が拡大し、それらに対応していくための地域を育み、福祉を支える人を育むことが、時代の要請となっています。

そのような環境の中、社会福祉法人の経営、運営に対しては非常に厳しい批判が社会から向けられています。2017年4月に本格施行された改正社会福祉法はまさに、財務規律やガバナンスの強化、運営の透明性を社会福祉法人に強く求めています。

事業団はこれまでも、寄付者のみなさまや福祉の担い手の方々とともに歩み、社会のニーズに応える事業を展開してきました。ガバナンス強化や運営の透明性の向上への取り組みは、事業団の運営を改めて見直し、これからの福祉を担うユニークかつ先進的な法人として確固とした運営基盤づくりをするにあたっては、よい機会であるともいえます。

このため事業団は、16年度半ばに、事業戦略検討チーム（通称：コアチーム）をつくり、中期計画づくりに着手しました。

職員全員が参加する（参加できない人はメールなどで意見をよせる）「みらい会議」を招集して議論し、おおむね2020年までの理念、人、事業、財務、情報についての基本的な方向性をまとめました。

今回は、私たちの社会的使命（ミッションステートメント）を明確にかかげました。これまで事業推進の3本柱としてすえてきた児童、高齢者、障害者という枠組みを超え、次代の福祉に対応させるべく「地域づくりへの貢献」「福祉を支える人づくり」、それを支える「社会的な支援の輪の拡大」を事業団の新たな三つの軸とし、あらゆる事業をその実現に向けて展開する形に、理念や方針を整理いたしました。

この枠組みにより、各分野を横断するような事業が立ち上げやすくなると思います。積立金も事業推進の理念にそって組み替え、その用途を明確にしました。

さらに事業団の大切な資産である職員の能力やモチベーションがいつそう高まるよう、スキルアップの場を増やし、働きやすい職場づくりに力を入れます。ソーシャルメディアも積極的に活用します。

ミッションステートメントを軸に構築された今回の計画は、これからの事業団を次代の福祉を担う組織に進化させるものと確信しています。

1. 事業団の社会的使命

① ミッションステートメント

自らの方向性を定め、常に自らを刷新していく指針とすべく事業団の「ミッションステートメント」を職員で共有します。

朝日新聞というブランドを効果的に活用し、地域と人を育み、支援の輪をつなぐな

〈私たちの使命〉

先駆的に取り組んできた歴史を踏まえて
未来を見すえ、地域と人を育み、支援の
輪をつなぎ、お互いに支え合えだれもが
安心して暮らせる社会をつくる

かで、誰もが自分らしく安心して暮らしていける社会の実現を、多くの団体や支援者と連携しながらめざしていきます。ミッションステートメントには、旧来の児童、障害者、高齢者という枠組みでは対応しきれない、介護者（ケアラー）の支援や貧困問題への対応など、新しい福祉問題に積極的に対応していきたいとの思いが込められています。

②職員モットー（事業への向き合い方）

次代の福祉を担う組織となっていけるよう、職員モットーをかかげます。新聞メディアの特性「信頼」「発信力」「情報力」をいかし、福祉ニーズへの対応やその解決に、これまで以上にスピーディーに取り組みます。その際には公正・中立な立場を堅持します。立場の異なる意見や新たな発想に謙虚な姿勢で対応し、独りよがりの考え方に陥ることなく、事業をすすめます。

〈活動モットー〉

- ・時代に必要とされる仕事をめざす
- ・社会的な視点を意識する
- ・新たな課題の発見に努める
- ・スピード感をもって仕事にあたる
- ・効果、効率を追求する
- ・質の高い仕事をめざす
- ・常に仕事を刷新する
- ・持続可能な形をめざす
- ・当事者を尊重する
- ・支援者・寄付者の視点を尊重する

2. 事業展開

①新「三つの軸」

事業は社会的使命の達成に向けた手段として位置づけます。各事業については、職員モットーでかかげたように、より当事者、そして支援者の思いを大切にし、また、絶えず刷新していくことで、すぐれた事業体としての運営を担保していきます。

2017年度からの新規事業は、この三つの軸の考え方をもとに着手することになります。旧来の児童、高齢者、障害者といった福祉領域のサービスもこうした概念を取り込み、発展的に展開します。

②地域にも積極的に貢献

地域で新たな福祉事業を始められるかどうかについて、勉強会を設けて探っていきます。

地域公益事業についても、責任をもって運営にあたっていきます。すでに多彩な事業を展開していますが、より充実させ地域に発信していきます。



3. 拠点と要員

①全国規模で対応

事業団は朝日新聞各本社に事務局をもち、全国規模で事業を展開しています。今後も全国に目配りをする姿勢をもちつつ、東京と、西部、名古屋を含む大阪の「2極」体制を続けていきます。大きな災害などのリスクに備える一方で、人、事業を分散させ、効率的な事業展開ができるよう

つとめます。また、異動などを含めた職員の交流により、広い視野をもち、グローバルな視点で事業をすすめることができるようなキャリアアップへの道筋も整えます。

②適正な人数配置

全国展開をする一方で、それぞれの事情に応じたきめ細かい事業展開を両立させるため、各事業所に必要な人員を配置していきます。

いまの地域別の事業費ベースでの内訳は、東京が約70パーセント、西部事務所と名古屋事務所を含む西日本事業部で約30パーセントとなっています。当面はこうした割合を念頭におき、それに必要な人員配置をしていきます。それぞれの事業所は、本部事務所と連携しつつ、事業所レベルでの財務的に安定した運営をめざしていきます。

③職員のスキルアップ

質の高い福祉事業の展開には、職員の質の向上が不可欠です。福祉のスペシャリストを招いての勉強会といった職員研修を充実させるほか、常に新しい視点で取り組む福祉活動を客観的に評価検討し、イノベートしていきます。

多様な働き方ができるよう、育児や介護時の就業を支えるフレックスタイム制の導入などについて今後検討し、環境整備に取り組めます。

4. 財務戦略・ガバナンス強化

①「次世代型積立金」に組み替え

近年の福祉は、貧困の問題に象徴されるように、問題が複雑化していきます。児童、障害者、高齢者という旧来の枠組みだけでは対応しづらい状況が生まれつつあります。

これに対応するために積立金を「児童支援」「地域支援」「人材支援」「東日本震災復興支援」の4つに分けて設定します。さらに、それぞれに該当する事業を仕分けします。今後は各積立金から各事業に、計画的かつ適切にお金を使っていきます。児童、高齢者、障害者という会計的な枠組みに収まらない事業に柔軟に対応していきます。

積立金名称	積立金の趣旨	主な充当先
1 児童福祉振興基金 (含む山岡基金) 7億2千万円	社会的支援を必要とするすべての子どもたちに夢と希望を与えるための基金	・進学応援金 ・子どもの貧困助成
2 地域福祉振興基金 4億4千万円	誰もが、年を重ねても安心して暮らすことのできる地域づくりに寄与する基金	・認知症プロジェクト ・認知症カフェ開設助成
3 福祉人材育成 啓発交流基金 2億7千5百万円	時代の福祉を担う人材を育み、その交流と福祉の啓発に寄与する基金	・手話スピーチコンテスト ・朝日夏季保育大学 ・ゆうゆうビジット
4 東日本大震災 地域支援基金 2億7千5百万円	東日本大震災で被災した地域の復興に寄与する基金	・朝日のおたる家 ・被災地訪問プログラム

②新しい収入源の確保に注力

現在の年間事業規模は4億円程度で推移しています。金額的には妥当なスケールであると思われます。しかしながら、寄付金収入やチャリティー事業の収入が今後落ち込むおそれがあり、安定的な資金的な裏づけのない事業団にとっては、収益源をまかなう収益事業をあらたに開拓する必要性が出てきます。

ネット空間を使った新たな寄付受け入れ手法の導入や、新しい視点でのチャリティー事業づくりなどに、全力をあげて取り組んでいきます。

③財務情報の透明化と管理の徹底

社会福祉法人に対するガバナンス徹底などの要請が強まっています。事業の収支については、各事業のフローバランスを注視、全体的収入に応じた支出規模となるように、これまで以上に厳密な管理をしていきます。事業の妥当性、会計の透明性を確保するため、一定の外部組織等による監査も導入します。

④柔軟なマネジメント

たとえ、実施することを年度当初に決めた事業であっても、ガバナンスの徹底、リスク低減の努力などがなされていなければ、直前であっても実施を見送ります。

事業を進める際には上司と部下が緊密に連絡、意見交換を交わしつつ、おおいに前向きな議論をしながら、最新のニーズにそった、意義のある事業を手がけていきます。

また朝日のあたる家のように、他団体を通じて支援している施設の老朽化に対応するメンテナンス費用などについても適切な金額の積み立てを考えておく必要があります。つねに数年先の将来像を描きながら、運営してまいります。

5. 広報展開

SNS（ソーシャルネットワーク）を積極的に活用

SNSの社会的な影響力は高まる一方です。事業団は法人独自のホームページをもち、その更新につとめ、催しなどの広報をしています。SNSの影響力が大きくなるなか、それらへの適応が急務となりつつあります。本格的な導入に向けてしっかりとした態勢をつくり、催しのいくつかでインスタグラム、ツイッター、フェイスブックなどを活用した実験的な取り組みをはじめます。

また、ウェブマーケティング（グーグルアドワーズを使った広告など）を一部の事業で活用し始めていますが、これらの活用も積極的に模索していきます。

おわりに

今、社会福祉法人の制度改革がすすめられています。この中期計画も、この法改正に対応する内容になっています。この度の改革の趣旨は、社会福祉法人の存在意義を問うものであり、私たちはこの要請にしっかりと応えていくべきと考えます。この計画は、新しく求められる社会福祉法人としての社会的役割、そして事業団としてのこれからの社会的使命を方向づける、重要な役割を果たすものと考えています。

今回、おおむね2020年までの方向性ということでもとめました。最新の福祉ニーズに応えるために修正が必要であれば、期中であっても速やかに変更していきます。常に時代に対応した事業を展開していく姿勢を貫きます。職員各自の、またご支援ご協力いただいている方々の思いが、本計画をもとに統合され、新しい福祉のカたちをつくっていただけるよう、努力してまいります。

朝日新聞厚生文化事業団のあゆみ

■関東大震災の救援活動がきっかけに

朝日新聞厚生文化事業団の設立のきっかけは、1923（大正12）年9月1日の関東大震災の被災者救援活動です。朝日新聞社は全国から寄せられた義援金や食糧、生活用品を被災者に配り、震災の翌年末には「歳末同情週間」（現在の「歳末助け合い」）を主催し、紙面キャンペーンや街頭募金を始め、美術家や作家などの協力を得た「色紙・短冊即売会」（現在の「朝日チャリティー美術展」）を催しました。これらの寄金を食糧や衣料品にかえて生活に困る人々に贈りました。

その後、世界的な経済恐慌で生活困窮者が増え、社会問題が続発したため、28年1月に「社団法人朝日新聞社会事業団」を大阪朝日新聞社に創設しました。「歳末同情週間」の寄金で生活困窮者に慰問袋や無料診察券、常備白米券を配り、困窮者への「出世資金」の貸し出しや農繁期託児所の開設、水上生活者のための無料診療船巡航などを実施しました。学校に弁当を持参できない子どもたちの「欠食児童給食運動」キャンペーンは、現在の学校給食のきっかけとなりました。大阪に公衆衛生訪問婦協会を設立し、保健・育児など多岐にわたる活動は日本の保健師制度の基礎を築きました。

第二次大戦後は、戦災者や引き揚げ者への家庭常備薬や医療品の配布、傷病兵慰問などの援護事業から始まりました。廃墟の中での明るい話題は、49年9月にインドのネール首相から贈られた象「インディラ」の「移動動物園」でした。半年間で東日本18都市を回り、子どもたちの笑顔を取り戻しました。

52年に社会福祉事業法が制定され、朝日新聞社の東京・大阪・西部各本社にそれぞれ独立の社会福祉法人を設け、「朝日新聞厚生文化事業団」と改称しました。63年には大阪事業団の名古屋支部が独立し、全国展開事業とともに地域福祉事業の推進に着手しました。

■子どもキャンプ、医療、高齢者…広がる事業

戦後の復興とともに本格的な社会福祉事業への取り組みが始まり、児童福祉法施行5周年を記念して大阪に「アサヒ生駒山キャンプセンター」を開設、児童養護施設の中学生修学旅行や福祉施設で暮らす高齢者の温泉旅行も始まりました。54年8月に第1回の「朝日夏季保育大学」が開かれ（2021年に終了）、56年2月から始まった「この子たちの親を探そう」運動は、戦争で生き別れた親子146組の対面を実現しました。

ハンセン病の正しい理解と患者支援のために「大阪ハンセン病協力会」を設立し、「アサヒベビー相談室」を大阪・名古屋のデパートで開設したほか、大学医学部による全国の無医地区診療など、医療と公衆衛生事業にも力を注ぎました。

59年9月の伊勢湾台風、64年6月の新潟地震では被災地に朝日診療車が出動して被災者救護にあたり、全国からの救援物資を配布しました。

高度経済成長と共に事業を拡大しました。三重県多徳島の「アサヒ志摩キャンプセンター」、愛知県梶島の「アサヒキャンプセンター」、千葉県保田海岸の「朝日臨海福祉センター」、大分県九重町の「朝日高原福祉センター」を開設し、福祉施設の子どものや障害のある子どもが参加するキャンプ事業が始まりました。また、激増する交通遺児家庭への支援活動を始め、視覚障害の学生の

ための奨学金制度も創設しました。

障害のある人や難病患者への支援も本格化し、電動タイプライター・電動車いすの贈呈や普及キャンペーンを展開。福祉のまちづくりを進める「車いす市民交流集会」や、福祉先進国を訪ねる「車いすヨーロッパの旅」も始まりました。

「ヨーロッパの旅」は障害のある人の海外旅行の先駆けとして注目され、これらの集会や旅の参加者の多くが、障害のある人の自立生活運動の中心となりました。また、「朝日ボランティア奨励金」「朝日福祉設備助成金」（86年に「朝日福祉助成金」に統合）を相次いで創設、各地でボランティア講座を開くなど、草の根福祉活動の支援を進め、認知症など介護の必要な高齢者の問題に対応する「アサヒ老人家族相談室」も開設しました。

■障害のある人の自立生活を支える

81年の国際障害者年には「障害者の自立を考えるシンポジウム」を全国で開催し、ノーマライゼーションの理念を基に、コミュニケーション・プリンターや手書き電話、福祉電話装置「ふれあい」などの贈呈運動を展開しました。精神障害者の医療や福祉の先進国である欧米5カ国に視察団を派遣し、日中平和友好条約締結10周年を記念した「日本・中国車いす市民友好相互交流」も実施しました。

また、自閉症の支援システム「TEACCH（ティーチ）プログラム」に着目、米国ノースカロライナ大学から講師を招いて研修会を開き、ガイドブックやビデオを制作・頒布するなど、本格的な普及活動を開始。2002年からはその実践者千人余りが集う「自閉症カンファレンス NIPPON」を開催しました。同時に学習障害児（LD）の理解を進める公開相談会や、深刻な社会問題となった青少年の「ひきこもり」問題を考えるシンポジウムも各地で開きました。

手話の普及とボランティア活動・福祉教育の推進をはかる「全国高校生（大学生）の手話のスピーチコンテスト」は84年にスタートしました。91年からの「アジア障害者の10年」にあたり、全国の障害者施設・団体と協力して、タイ・ベトナム・カンボジア・フィリピンなどに車いすを贈る運動を展開、障害のある現地の人が車いすを制作・修理する工場を開設しました。

■相次ぐ災害、救援活動に独自性を発揮

一方、83年のアフリカ飢餓救援キャンペーンをはじめ、国内外で起こった災害に対応して、救援募金を呼びかけてきました。91年には「チェルノブイリに光を」キャンペーンを開始、広島・長崎の赤十字病院で被災地の子どもを診療し、現地の医師が被曝（ひばく）治療の研修を受けました。

95年1月の阪神淡路大震災では、救援拠点として「朝日ボランティア基地」を開設し、高齢者・障害のある人への緊急援助や仮設住宅世帯、アジアからの留学生、被災児への支援など多岐にわたって活動。2004年の新潟県中越地震では、被災者の心のケアをはかる事業を展開しました。この実績は11年3月の東日本大震災でも生かされ、両親を失った子どもに一時金を贈る「こども応援金」や、岩手県陸前高田市の地域交流施設「朝日のあたる家」の開設など、独自の救援事業に取り組んでいます。

東京・大阪・西部・名古屋で独立して活動してきた各事業団は01年4月1日に合併して、「社会福祉法人朝日新聞厚生文化事業団」となり、23年には創立95周年を迎えます。新聞社の福祉事業として、常に社会の変化やニーズを先取りし、社会意識を高めるための取り組みを続けています。

名簿

理事・監事・評議員名簿（敬称略、五十音順）

（2022年3月31日現在、理事6人 監事2人 評議員7人）

理事長	藤井 龍也	朝日新聞社顧問
業務執行理事	鈴木 健	朝日新聞厚生文化事業団理事
理事	炭谷 茂	社会福祉法人恩賜財団済生会理事長 元環境事務次官
同	服部 万里子	服部メディカル研究所所長
同	早瀬 昇	社会福祉法人大阪ボランティア協会理事長
同	三国 治	元社会福祉法人こどもの国協会常務理事・園長
監事	亀岡 保夫	公認会計士 大光監査法人会長
同	狩野 信夫	社会福祉法人けやき福祉会常務理事（業務執行理事）
評議員	石神 和美	朝日新聞社 CSR 担当補佐兼 CSR 推進部長
同	石渡 和実	東洋英和女学院大学名誉教授
同	大谷 泰夫	社会福祉法人日本保育協会理事長
同	大塚 晃	一般社団法人日本発達障害ネットワーク副理事長
同	小林 秀樹	社会福祉法人東京都社会福祉協議会事務局長
同	杉村 全陽	社会福祉法人テレビ朝日福祉文化事業団事務局長
同	水野 雅生	ミズノプリテック株式会社社会長

職員名簿（2022年3月31日現在）

【本部】（東京）

事務局長	是永一好
事業第一部長	野崎貴士
事業第二部長	宮前 賢
管理担当部長	山本 剛
広報担当部長	河田有子
	落合すが子
	勝見文子
	古屋厚子
	富岡信幸
	中村宣人
	松岡百合

【大阪事務所】

西日本事業部長	
兼大阪事務所長	山本雅彦
	小倉玲子
	藤本祐子
	森田英枝

【西部事務所】

事務所長	上原 啓
------	------

【名古屋事務所】

事務所長	岡本真幸
------	------

2021

朝日の社会福祉

令和3年度事業報告

HP・fb・Twitter・Instagramで福祉情報を発信しています。

- <http://www.asahi-welfare.or.jp/>
- <https://www.facebook.com/asahiwelfare/>
- https://twitter.com/asahi_welfare
- <https://www.instagram.com/asahiwelfare/>

